

<< シラバス集 目次 >>

科目番号	講義科目名称	ページ数	開講期間	配当年	単位数	科目必選
4. デザイン学部_学部共通科目						
DX104A	現代科学入門	P1	前期	1年	2単位	選択
DX105A	数学入門	P2	後期	1年	2単位	選択
DX107A	デザイン学概説	P4	前期	1年	2単位	必修
DX109A	美術史	P5	前期	1年	2単位	選択
DX111A	デザイン心理学	P6	後期	1年	2単位	選択
DX112A	経済学概論	P7	前期	1年	2単位	選択
DX301A	メディア文化論	P8	前期	2年	2単位	選択
DX302A	ユニバーサルデザイン	P9	後期	2年	2単位	選択
DX303A	人間工学 I	P10	前期	2年	2単位	選択
DX304A	映像メディア論	P11	後期	2年	2単位	選択
DX305A	生活学	P12	前期	2年	2単位	選択
DX306A	TOEIC I	P13	後期	2年	2単位	選択
85130A	インテリアデザイン	P15	前期	3年	2単位	選択
85140A	景観デザイン	P16	前期	3年	2単位	選択
85150A	空間デザイン	P17	後期	3年	2単位	選択
85240A	TOEIC II	P18	前期	3年	2単位	選択

授業年度	2015	シラバスNo	DX104A
講義科目名称	現代科学入門		
英文科目名称	Introduction to Modern Science		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	太田 有生夫		
開講意義目的	現代を生きる我々を支えている科学技術が、どのような経緯を経て開発され普及したものであるかを、明治維新から現代までの歴史を振り返り、その社会的背景、開発に携わった人物像、その後の社会に与えた影響などについて、いくつかの事例を挙げて検証する。		
授業計画	<p>第1回 日本の技術革新経験 西洋近代技術の導入から現代における生活の変化について解説する。</p> <p>第2回 技術革新のモデルと日本の特徴 日本における技術革新の特徴を、いくつかの革命的技術革新の事例を通して解説する。</p> <p>第3回 大規模プロジェクト プロジェクトの特徴を、日本や世界で実施された代表的プロジェクトの事例を通して解説する。</p> <p>第4回 知的財産保護 特許権など、知的財産を保護する仕組みについて解説し、現代が抱える知的財産保護の問題点について考察する。</p> <p>第5回 工学教育と技術者 日本における技術者養成の歴史を振り返り、21世紀に期待される技術者像について考察する。</p> <p>第6回 安全な技術の確立 近代から現代に至る労働災害の歴史を振り返り、現代が抱える新しい危険源について解説する。</p> <p>総合レポート 総合レポート(1)作成 第1回から第6回までの授業内容を振り返り、総合レポートを作成する。</p> <p>第7回 技術と生活の変容 近代から現代にかけて、新しい技術の普及がもたらした日本人のライフスタイルの変化について解説する。</p> <p>第8回 クォーツ腕時計開発物語 日本が世界に先駆けて開発した技術の中で、世界の人々の生活を大きく変えた水晶発振式腕時計の開発を取り上げ、戦後の復興に尽力した技術者たちの生き様を語る。</p> <p>第9回 日本のテレビ技術 人類の偉大な発明品のひとつであるテレビの開発の歴史を通して、テレビの開発競争に敗れながらも開発に邁進した技術者の姿と、世界に先駆けてテレビ用のアンテナを開発したにもかかわらず、その功績を認められなかった研究者の姿を対比し、技術開発の光と影について解説する。</p> <p>第10回 自然エネルギーの利用技術 石油代替エネルギーとしての自然エネルギーの利用技術について解説する。</p> <p>第11回 自然風土と技術 歴史的建造物の構造から日本の伝統技術を検証し、現代に伝統技術を生かす意味について考察する。</p> <p>第12回 ロボットの科学技術 安心で安全な社会を支える技術のひとつとしてロボット技術を採り上げ、人間とロボットが共存できる社会の構築について解説する。</p> <p>総合レポート 総合レポート(2)作成 第6回から第12回までの授業内容を振り返り、総合レポートを作成する。</p> <p>第13回 現代社会を取り巻く環境問題 複雑極まりない現代社会を取り巻く環境問題について、環境問題が発生する社会的背景について解説する。</p>		
教育目標との対応	問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる能力を習得する。		
授業の到達目標	① 現代が必要としている科学技術について認識し、各自が社会に対していかに貢献すべきであるかを自覚する。 ② 意思決定に際しての情報収集の仕方と理論的思考のあり方について学習する。		
指導方法	① 担当教員が準備する印刷教材に沿って、必要な事項について解説する。 ② 研究課題を指定し、レポートの作成を課す。		
教科書・参考書	担当教員が印刷教材を準備する。		
評価方法	課題レポート(6回) 60%、第1回から第6回までの総合レポート 20%、第7回から第12回までの総合レポート 20%		
受講上の注意	① 定期試験および追試は実施しない。 ② 欠席届を提出した場合でも課題レポートは免除とならないので、担当教員の指示に従い提出すること。		
授業外における学習方法	指定された研究課題について資料を収集し、レポートを作成する。		
能動的授業又は地域課題	【能動的授業の種類】なし【地域課題解決目的有無】なし		

授業年度	2015	シラバスNo	DX105A
講義科目名称	数学入門		
英文科目名称	Introduction to Mathematics		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	河野 雅也		
開講意義目的	日頃何気なく見ているデザインの中には色々な数学的要素が埋め込まれている。言い方を変えれば、デザインには数学的なセンスが必要になる。そこで、本講義では身の回りにある数理を題材にしなが、数学的なセンスを養うための基礎的な数学について学習する。		
授業計画	1回 イントロダクション ・履修ガイダンス ・学習到達度判定テスト 2回 2次関数 ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大と最小 ・2次関数の応用 3回 三角関数(1) ・三角比 ・弧度法 ・三角関数の性質 4回 三角関数(2) ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角関数の合成 5回 指数関数と対数関数 ・累乗と指数 ・指数関数 ・対数 ・対数関数 6回 数列と極限 ・数列 ・極限 7回 微分(1) ・微分の定義 ・定義の沿った微分 ・多項式の微分 8回 微分(2) ・色々な関数の微分 ・合成関数の微分 9回 微分(3) ・関数の最大、最小 10回 積分(1) ・積分の定義 ・多項式の積分 11回 積分(2) ・色々な関数の積分 12回 積分(3) ・面積 ・体積 13回 ベクトル ・ベクトルの定義 ・ベクトルの表現方法 ・ベクトルの和差 ・ベクトルの合成と分解 14回 行列(1) ・行列の定義 ・行列の表現方法 ・行列の和差 15回 行列(2) ・行列の積 ・逆行列 ・連立1次方程式 ・全体のまとめ ・今後の学習方法		
教育目標との対応	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。 1)(関心・意欲・態度)		
授業の到達目標	デザインが豊かな人間生活の向上にどのような影響をあたえるのかを考えることができる。		
指導方法	基本的な関数の性質を学んだ後、微分積分学および線型数学の基礎を習得する。 講義形式で行う。講義内容を要約したスライドや配布資料を用いて説明する。 理解度をチェックするために、適宜レポートを課す。		
教科書・参考書	教科書:「数学入門」、橋口・星野・山田、学術図書出版社 参考書:なし。 適宜資料を配付する。		
評価方法	講義内容に関わる複数回のレポート(30%)および定期試験(70%)で成績を評価する。		
受講上の注意	オフィスアワー:小倉CP本館1002研究室、金曜日の昼休み Emailアドレス:mkawano@nishitech.ac.jp (※)質問等については、emailでも受け付ける。 交通機関の遅れなどの理由がない限り、授業開始後10分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、無断で途中退出した場合も欠席扱いとする。 学習態度が良好で、かつすべてのレポートが受理された者のみに定期試験の受験資格を与える。		

授業外における学習方法	授業計画に記載している内容についてテキストや事前配布資料等をもとに調べておくとともに、前回の講義内容を復習した上で、講義に臨むこと。
能動的授業又は地域課題	能動的授業の種類: 無

授業年度	2015	シラバスNo	DX107A
講義科目名称	デザイン学概説		
英文科目名称	introduction to Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	岡田, 平井, 竹田, 前口, 成田, 八木, 石垣, 臼井, 梶谷, 竜口, 宝珠山, 趙, 高柳, 浜地, 中島, 岩田		
開講意義目的	大学でデザインを学ぶための導入講義を行う。デザイン学部全教員が各専門分野のエッセンスについて、研究や実践活動などを紹介しながらわかりやすく解説する。		
授業計画	1回 4/10(平井) 建築における鉄骨構造の特色と世界の超高層建築物について概説 2回 4/17(竜口) 3回 4/24(竹田) セメント・コンクリートについて、また、鉄筋コンクリート構造について概説 4回 5/1(宝珠山) 情報デザイン学及びメディア表現について概論的講義を行う 5回 5/8(岡田) 建築の「計画」について研究室の設計活動、まちづくり活動、研究活動を紹介し解説 6回 5/15(趙) 映像やCGIに関する事例を紹介し、社会での役割及び可能性について概説 7回 5/22(前口) 建築構造の種類・設計及び現場における現場監督の仕事内容を概説 8回 6/5(高柳) デザインと何か、そして社会で必要とされるシステムを解説 9回 6/12(成田) 建築設備と、その基礎学問となる建築環境工学について概説 10回 6/19(浜地) グラフィックデザインや絵画の平面造形の社会的役割や魅力を概説 11回 6/26(石垣) 建築設計の流れについて概略を図面や工事写真などを用い説明 12回 7/3(中島) クルマや雑貨などの工業製品のものづくりにおけるデザインの役割を学ぶ 13回 7/10(梶谷) 14回 7/17(岩田) 映像表現を活用したビジュアルコミュニケーションについて学ぶ 15回 7/24(岡田) まとめ		
教育目標との対応	デザインが豊かな人間生活の向上にどのような影響をあたえるのかを考える。		
授業の到達目標	デザインが豊かな人間生活の向上にどのような影響をあたえるのかを考えることができる。		
指導方法	オムニバスで講義をする。		
教科書・参考書	講義の中で必要に応じて紹介する。		
評価方法	授業参加状況および各講義の最後に実施する小論文または小テストの採点結果による。		
受講上の注意	必修科目である。毎回実施する小論文または小テストの採点結果が成績評価に直結するので、遅刻や欠席することなく、勉学に精進すること。		
授業外における学習方法	復習すること。		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX109A
講義科目名称	美術史		
英文科目名称	History of Art		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	浜地 孝史		
開講意義目的	私たちは、テレビや映画・インターネットなどを通して、非常に多様な視覚情報に囲まれて生活している。この授業では、現在の視覚情報を形作る背景となっている、人類が過去の歴史の中で創造してきた絵画や彫刻を中心に紹介する。さらに、それらが制作された時代背景と結びつけ、社会や技術と作品の関係を学ぶことで、美術作品への理解を深める。また、作品を形づくる造形上の工夫を解説し、形態や色彩と創造されるイメージの関係を理解することを目指す。		
授業計画	<p>初回 イントロダクション 授号の目的・授業の進め方・講義の概要の説明。</p> <p>2回目 西洋美術史① 石器時代・メソポタミア・エジプト・ギリシャ・ローマ・初期キリスト教・中世・ゴシックルネッサンス・マニエリスム・バロック</p> <p>3回目 西洋美術史② ルネッサンス・マニエリスム・バロック</p> <p>4回目 西洋美術史④ ロココ・新古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派</p> <p>5回目 西洋美術史⑤ ポスト印象派・アートアンドクラフト・アールヌーボー・アールデコ・バウハウス・ユークレントスタイル</p> <p>6回目 西洋美術史⑥ フォービズム・表現主義(ブリュッケ・青騎士)・キュビズム・未来派・抽象・構成主義・ダダ・シュルレアリスム・エコールダバリ・素朴派</p> <p>7回目 西洋美術史⑦ アンフォルメル・抽象表現主義・ミニマルアート・ネオダダ・ポップアート・新表現主義など</p> <p>8回目 日本美術史① 石器時代・古墳・飛鳥・奈良・平安時代</p> <p>9回目 日本美術史② 鎌倉時代・室町・安土桃山</p> <p>11回目 日本美術史③ 江戸時代前半</p> <p>11回目 日本美術史④ 江戸時代後半</p> <p>12回目 日本美術史⑤ 明治・大正・昭和初期</p> <p>13回目 日本美術史⑥ 昭和後期</p> <p>14回目 日本美術史⑦ 平成(現代の表現)</p> <p>15回目 まとめ 講義を通じたまとめを行い、レポートを作成する。</p>		
教育目標との対応	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。 1-1) 人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる 1-2) アイデアをデザイン化するための芸術的感性を高めることができる		
授業の到達目標	①美術史の大きな流れを理解する。 ②社会の変化と美術表現の変化との関係を理解する。 ③様々な絵画・彫刻を観察し、表現の工夫を発見する力を身につける。		
指導方法	各回のテーマとなる時代の作品や作家を紹介。視覚的な資料をプロジェクターによって投影しながら解説する。		
教科書・参考書	教科書: カラー版西洋美術史 教科書: 日本美術史 JAPAN ART HISTORY 参考書: 必要に応じて紹介する		
評価方法	レポート: 80% 受講態度: 30%		
受講上の注意			
授業外における学習方法	全授業15回のうち、前半の7回は西洋美術史、後半の7回は日本美術史の講義を行う。各回の授業に実施される教科書の部分に事前に目を通しておくこと。また、授業時に紹介した絵画や彫刻作品について、各自授業後に調べておくこと。		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX111A
講義科目名称	デザイン心理学		
英文科目名称	Design Psychology		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	山縣 宏美		
開講意義目的	デザインに関わる心理学的知見や、製品を購入、使用する人の心理、その測定法についての講義を行う。実際に何かをデザインする時や、デザインしたものを説明する時に、これらの知見を使用することができるようになることを目的とする。		
授業計画	1回 デザイン心理学とは オリエンテーション 2回 デザインの認知1 人の知覚の特徴: 視覚 3回 デザインの認知2 人の知覚の特徴: 運動視, 聴覚, 感覚の統合 4回 色の認知 色の認識と心理的効果 5回 空間の認知1 認知地図 6回 空間の認知2 認知地図形成に関わる要因 7回 ヒューマンエラー1 エラーの種類, 特徴 8回 ヒューマンエラー2 エラーを防ぐデザイン: アフォーダンスなど 9回 消費者行動1 購買行動のモデル 10回 消費者行動2 広告の影響 11回 マーケティング・リサーチ1 マーケティングリサーチとは 12回 マーケティング・リサーチ2 調査対象の選び方, 調査の実施の仕方 13回 マーケティング・リサーチ3 調査項目の作り方, 分析方法 14回 マーケティング・リサーチ4 マーケティングリサーチの実習1 15回 マーケティング・リサーチ5 マーケティングリサーチの実習2		
教育目標との対応	デザインに関する基礎力を備えたデザイナー, エンジニアの育成を目指し, デザインを認識するプロセスについて理解し, また製品を購入, 使用する人の心理を知ることで, よりよいデザインを作り出す能力を習得する。 ・人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる能力を修得する ・アイデアをデザイン化するための芸術的感性を高めることができる能力を修得する ・情報デザインに関する基礎力を備え, 人間社会の応用することができる能力を修得する		
授業の到達目標	デザインに関わる心理学的知見を理解し, これらの知見を利用することができるようになる ・デザインを認識するプロセスについて理解する ・アフォーダンスについて理解し, 使いやすいデザインについて理解する ・製品を購入, 使用する人の心理, その測定法について理解する		
指導方法	講義, 実習による		
教科書・参考書	プリントを配布		
評価方法	テストにより評価する		
受講上の注意	なし		
授業外における学習方法	授業中に出される課題を次週までに完成し提出すること		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX112A
講義科目名称	経済学概論		
英文科目名称	An Introduction to Economics		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	竹中 知華子		
開講意義目的	本講義では、経済学の基礎理論を可能な限り平易に解説し、マクロ経済学やミクロ経済学といった専門的な経済知識をマスターすることを目的としています。 知識を得るには体系だった学習が必要ですが、効率的に講義を進め、応用的な経済問題にも取り組んでいきます。		
授業計画	1回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(1) 経済とは何でしょう？ 2回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(2) 生産者や消費者の理論 3回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(3) 市場の理論 4回 経済循環のメカニズムや需要、供給など、経済の基本的な理論について学ぶ(4) 市場の効率と市場の失敗 5回 金融の基礎知識や金融市場、金利について学ぶ(1) 金融とは 6回 金融の基礎知識や金融市場、金利について学ぶ(2) 金融市場 7回 金融の基礎知識や金融市場、金利について学ぶ(3) 外国為替市場とは何か。 円高、円安の原因、影響などについて学びます 8回 物価とは何か？ 景気、インフレーションやデフレーションについて学びます 9回 経済のメカニズム 金利、為替相場、物価などと景気の間関係を学ぶ 10回 11回 国家財政について 12回 地方財政について 13回 租税について 14回 社会保障制度について 15回 財政政策について これからの日本経済		
教育目標との対応	豊かな人間性と幅広い教養を備え、情報デザインの分野から社会に貢献できるデザイナー、エンジニアを目指して、日本の社会で活躍できるコミュニケーション力を身に付け、人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解し、情報デザインに関する基礎力を備え、応用することができる。		
授業の到達目標	基礎理論をマスターするには、体系的な経済の学習が必要です。常に経済の全体像をイメージしながら、景気、株、為替、財政などの項目ごとの経済問題を分析していきましょう。 日常生活、これからのビジネスの場面で、日本の経済情勢を把握し、雇用や所得問題などに対応できるような強い経済理解力を獲得しましょう。		
指導方法	講義スタイルで行います。日々の経済ニュースに応じて映像資料も使用します。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし		
評価方法	授業参加態度20% 定期試験80%		
受講上の注意	特にありません。		
授業外における学習方法	経済の専門用語について、英語⇄日本語も含めて覚えるようにしましょう。 配布プリントは必ず再読しましょう。		
能動的授業又は地域課題	特にありません。		

授業年度	2015	シラバスNo	DX301A
講義科目名称	メディア文化論		
英文科目名称	Media Studies		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	宝珠山 徹		
開講意義目的	インターネットと携帯端末の普及によって、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌など従来からのコミュニケーション・メディアは、その根幹からの変容を迫られている。時代の大きな変わり目である今日において、情報メディアと生活・文化・社会のあり方について私たちはどのように考え、どのようなコミュニケーション環境を構想し、どのように生き延びればよいのだろうか。身近な視線から新たなビジョンの獲得をめざす。		
授業計画	1回 イントロダクション 授業の概要について、教科書『街場のメディア論』について 2回 キャリアは他人のためのもの ◎街場のメディア論： 仕事をするとはどういうことか、自分の能力について人は知らない 3回 マスメディアの嘘と演技 ◎街場のメディア論： テレビの存在理由、ラジオの危機耐性、高度情報社会と五感情報通信 4回 メディアと「クレイマー」 ◎街場のメディア論： 被害者であるという正義、無責任な権利、ありがとうが言えない社会、情報モラル 5回 「正義」の暴走 ◎街場のメディア論： 患者は「お客さま」か、暴走するメディア 6回 メディアと「変えないほうがよいもの」 ◎街場のメディア論： 世論と知見、買い物上手になる学生たち 7回 読者はどこにいるのか(1) ◎街場のメディア論： 本を読みたい人は減っていない、出版は内部から減る 8回 読者はどこにいるのか(2) ◎街場のメディア論： 不毛な著作権争い、書物は商品ではない、知的財産権とクリエイティブコモンズ・ライセンス 9回 贈与経済と読書 ◎街場のメディア論： 贈与と返礼、無償で読む人を育てよ 10回 わけのわからない未来へ ◎街場のメディア論： 「ただ」のものの潜在的価値、生き延びられるものは生き延びよ 11回 メディア文化論(1)： グループでの企画・調査・ディスカッション(1) 12回 メディア文化論(2)： グループでの企画・調査・ディスカッション(2) プレゼンテーション(発表)の準備 13回 メディア文化論(3)： プレゼンテーション(1)前半 14回 メディア文化論(4)： プレゼンテーション(2)後半 15回 まとめ メディア文化論、生き延びられるものは生き延びよ		
教育目標との対応	現代社会における人間文化とコミュニケーション・メディアを展望し、情報を活用し自分の考えをもち行動できる能力を修得する。生活・社会・デザインにおいてそれらを選択的に活用できるデザイナー・エンジニア・デザイン実務者・生活者の育成をめざす。また教職課程としては、理論を活用し実践展開できる基礎技能・コミュニケーション能力、表現力等を修得する。		
授業の到達目標	情報環境・コミュニケーション環境への視線から、現代社会・生活・文化の諸相について展望し、新たな環境を生き抜く本質的な経験理解の獲得をめざす。		
指導方法	教科書の講読、映像資料等を交えた講義を中心に、授業内レポート、演習(グループディスカッション等)を進める。		
教科書・参考書	教科書：『街場のメディア論』(内田樹、光文社新書、740円) 参考書：『情報デザイン入門—インターネット時代の表現術』(渡辺保史、平凡社新書、720円)		
評価方法	授業への参加度30%、授業内レポート等30%、期末試験40%による総合評価		
受講上の注意	デザイン学部(情報デザイン学科、建築学科)の「学部共通科目」である。 その回に扱う章は、事前に教科書を読んでくること。他の学生の迷惑になるため、私語には厳しく対処するので注意すること。 本科目は、高等学校一種免許状(情報)の教科に関する科目の中で「情報社会及び情報倫理」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	生活の中でコミュニケーション・メディアについて関心をもち、様々な事柄について「メディア・文化」という観点から観察すること。 事前に教科書を読んでくること。		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX302A
講義科目名称	ユニバーサルデザイン		
英文科目名称	Universal Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	竜口 隆三		
開講意義目的	ユニバーサルデザインを实践するために、前期「生活学」でその発想の背景にある障害のある人の社会的活動など、基礎的な情報を学んだ。本講義では、アクセシビリティやバリアフリーの考え方の違い、今日の少子高齢化社会におけるユニバーサルデザインの展開、「モノ」「家」「まち」さらに海外の事例を基にユニバーサルデザインを实践してするために必要なプロセス、技術の基礎を学習する。		
授業計画	1回 UDの授業の進め方 UDの基礎 バリアフリーとユニバーサルデザインの違い 2回 UDの7原則① UDの基本的な考え方とモノ・空間での確認 3回 UDの7原則② UDの基本的な考え方とモノ・空間での確認 4回 住宅のUD ひとにやさしい住宅のあり方他 5回 公共のUD みんなが利用する公共の建築物や環境のやさしさについて 6回 大学での取り組み マップづくりやかばんづくりを通じて、「ひとにやさしいところ」を育てる 7回 行政のUDへの取り組み ユニバーサルデザインに注力している県や市。 どの様に取り組んでいるか 8回 企業のUDへの取り組み① トヨタ・パナソニック・コクヨ他 9回 企業のUDへの取り組み② TOTOの取り組み 10回 海外のUD事情 ヨーロッパの現状 11回 UDものづくり① UD商品づくりの基礎 12回 UDものづくり② UD商品づくりの基礎 13回 UDものづくり③ UD商品づくりの基礎 14回 UDものづくり④ UD商品づくりの基礎 15回 UD心得10ヶ条 ユニバーサルデザインの集大成(復習も含め)		
教育目標との対応	「主に次の能力を修得する」 ・人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる ・地域活性化に対する情報デザインの役割を理解することができる ・自主的かつ継続的にキャリアを形成する取り組みができる ・問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる ・人間社会にある様々な問題をデザインという側面から解決する技術力を有することができる ・構想・企画・立案・実践を通して、より高い付加価値を創造しマネージメントすることができる		
授業の到達目標	常にユニバーサルデザインの基本である ・まず「ひとを観る」「生活を観る」 ・次に「気づく」 ・気づいたら「創造的発想」で具現化を目指す を常に意識できること。		
指導方法	「ひとにやさしいところ」「ひとを思いやる気持ち」を持った学生を育てること 主に講義・演習形式で授業を進め、授業の理解度を深めるために学外授業(国際福祉機器展見学等)を実施し、レポート提出を課す。		
教科書・参考書	教科書:なし、参考書:なし(必ず講義内容のレジメを配付する)		
評価方法	授業参加・態度:30%、レポート提出:40%、定期試験:30%		
受講上の注意	どうすれば「ひとにやさしいところ」を意識せずに考えられるようになるか、自分の意識革命を起こす気持ちで授業に参加して欲しい。		
授業外における学習方法	障害当事者と触れ合うボランティア活動への参加、及びまちなか活性化活動へのボランティア参加		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX303A
講義科目名称	人間工学 I		
英文科目名称	Ergonomics 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	中島 浩二		
開講意義目的	毎回授業の前半はラフスケッチの訓練を行う。3次元で素早く思い浮かべる形状を表現できるようになる。事例紹介を中心に、プロダクトデザイナーの考え方、工夫、テクニックなどを学び、プロダクトデザイナーになるためには何をすべきかを考える		
授業計画	1回 オリエンテーション 紹介するプロダクトデザイナー ラフスケッチの基本 2回 日本のプロダクトデザイナー その1 ラフスケッチー線を引く あるプロダクトデザイナーに注目し、作品、考え方、工夫、テクニックを紹介する。 3回 日本のプロダクトデザイナー その2 ラフスケッチー円を描く 同上 4回 日本のプロダクトデザイナー その3 ラフスケッチー楕円を描く 同上 5回 日本のプロダクトデザイナー その4 ラフスケッチー立方体を描く 同上 6回 日本のプロダクトデザイナー その5 ラフスケッチー立方体の間違い探し 同上 7回 日本のプロダクトデザイナー その6 ラフスケッチー円柱・円錐 同上 8回 日本のプロダクトデザイナー その7 ラフスケッチー立方体の組み合わせ 同上 9回 日本のプロダクトデザイナー その8 ラフスケッチー様々な立体の足し算引き算 同上 10回 日本のプロダクトデザイナー その9 ラフスケッチー三面図から透視図 その1 同上 11回 日本のプロダクトデザイナー その10 ラフスケッチー面図から透視図 その2 同上 12回 海外のプロダクトデザイナー ラフスケッチー等高線による自由曲面の表現 著名な海外プロダクトデザイナーの作品や考え方を紹介する 13回 プロダクトデザインと時代背景 ラフスケッチー所持品を描いてみる グッドデザイン賞受賞作品をメインに受賞となった時代の背景を紐解く 時代が求めるデザインの好例を多数紹介 14回 プロダクトデザインの今と未来 ラフスケッチーアイデアを短時間で表現する 世界的なプロダクトデザインの流れ 未来のプロダクトデザイン 15回 まとめ 紹介した事例の総括 プロダクトデザイナー共通の考え方		
教育目標との対応	・人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる ・アイデアをデザイン化するための芸術的感性を高めることができる ・自主的かつ継続的にキャリアを形成する取り組みができる ・問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる ・情報デザインに関する基礎力を備え、人間社会の応用することができる ・情報デザインや情報技術における基本理論・技術を理解することができる ・情報デザインや情報技術に関する技術動向を継続的に学び、課題解決につなぐことができる ・人間社会にある様々な問題をデザインという側面から解決する技術力を有することができる ・構想・企画・立案・実践を通して、より高い付加価値を創造しマネージメントすることができる ・自己のアイデア・考えを的確に伝えるコミュニケーション力と基礎的な語学能力を身につけることができる		
授業の到達目標	・アイデアスケッチをすぐに三次元で表現できる ・身の回りのデザインを見る習慣をつける		
指導方法	PCプレゼンテーションによる座学 ミニレポートを毎回課す		
教科書・参考書	参考書:GOOD DESIGN AWARD		
評価方法	授業態度、レポート、ラフスケッチなどの総合評価		
受講上の注意	様々なデザイナーの考え方に触れ、自分のデザインスタイルを確立する意思を常に持って受講してください。 授業だけでなくたくさんスケッチを描く練習をしてください。		
授業外における学習方法	日常的なアイデアスケッチの練習		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX304A
講義科目名称	映像メディア論		
英文科目名称	Introduction to Media Informatics		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	趙彦		
開講意義目的	映像メディアの誕生、発達が人間の思想や認知、そして地域社会や国際社会(異文化コミュニケーション)の在り方にどのような影響を与えたのか、子供と映像メディアの関わり方や影響について学ぶことを目的とする。		
授業計画	<p>初め オリエンテーション 授業の進みと内容について</p> <p>講義1 映像の誕生と社会を取り巻く影響について</p> <p>講義2 映像の誕生と社会を取り巻く影響について 映像メディアの特性について(1) 社会を取り巻く情報メディアや映像メディアについて 国際社会を中心に</p> <p>講義3 映像メディアの特性について(2) 社会を取り巻く映像(情報)メディアについて 地域社会を中心に</p> <p>講義4 映像そして異文化コミュニケーションについて(1) 異文化コミュニケーションにおける映像(情報)メディアの役割について</p> <p>講義5 映像そして異文化コミュニケーションについて(2) 異文化コミュニケーションにおける映像(情報)メディアの役割について</p> <p>講義6 メディアとしての映像について 情報としての映像メディアについて</p> <p>講義7 日常生活における映像の役割について 映像メディアと関わり方について (日常生活を中心に)</p> <p>講義8 映像メディアを支える技術について(1) 映像メディアとコンピュータグラフィックスについて (コンピュータグラフィックスを中心に)</p> <p>講義9 映像メディアを支える技術について(2) 映像メディアとコンピュータグラフィックスについて (映像メディアを中心に)</p> <p>講義10 映像メディアを支える技術について(3) マルチメディアにおける映像の使い方について (マルチメディア機器を中心に)</p> <p>講義11 インターネット環境と映像メディアについて マルチメディアにおける映像の使い方について (インターネット環境を中心に)</p> <p>講義12 映像メディアがもたらす影響について(1) 広がるメディアと子供への影響について (映像とゲームを中心に)</p> <p>講義13 映像メディアがもたらす影響について(2) 広がるメディアと子供への影響について (映像とゲームを中心に)</p> <p>講義14 映像メディアの進化について 映像メディアの進化と変貌について</p>		
教育目標との対応	映像コンテンツがもたらす社会や個人の価値観への影響力、教育や文化など、多様な映像メディア、賢い観客、聴衆として、映像メディアといかに能動的・創造的に関わっていく力を修得する。 マルチメディアに関する理論等を活用し実践を展開する基礎技能、情報技術・コミュニケーション力を備え表現できる能力を修得する。 人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる。		
授業の到達目標	①映像メディアを通し、異文化理解と正しく伝える表現方法について修得する。 ②子供と映像メディアの関わり方について修得する。		
指導方法	理論と参考映像を中心に行う。		
教科書・参考書	教科書・参考書なし。		
評価方法	授業中の態度40%・レポート20%、最終課題提出50% 総合評価する。		
受講上の注意	オフィスアワー以外では、メールで質問等を受け付ける。 choaun@nishitech.ac.jp メールの件名は「学籍番号 氏名 受講科目名」を記載のこと。 本講義は、高等学校一種免許状(情報)の教科に関する科目の「マルチメディア表現及び技術(実習を含む)」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	授業計画に記載している内容についてテーマや事前配布資料等をもとに調べておくとともに、前回の講義内容を復習した上で、講義に臨むこと。		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX305A
講義科目名称	生活学		
英文科目名称	barrier free		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	竜口 隆三		
開講意義目的	障害のある方や高齢者の生活環境を理解するため、実際に障害のある方(複数)を講師に招き、一日の生活の中での困り具合や改善に向けた生活の知恵を確認し、自助具、車いす、コミュニケーションエイドなどさまざまな支援機器を実際に使用してその便利さを知る。 モノ・住宅・まちづくりと幅広く体験学習を取り入れバリアフリーを学び、後半では公共の建物(JR駅)や障害者雇用企業を見学・調査し、障害者や高齢者配慮の実態及び改善点を見つけ出す授業です。		
授業計画	<p>1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーとは何か? ・障害とは何か? ・バリアフリー授業の内容説明 ・バリアフリーとは? (公共トイレで考える) ・バリアフリーを理解しユニバーサルデザインへ (皆にやさしいトイレの標準化) <p>2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能・障害の理解 ①「脊髄損傷」「脳性まひ」「リウマチ」他 <p>3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能・障害の理解 ②「視覚障害」「聴覚障害」他 <p>4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能・障害の理解 ③「聴覚障害」 <p>5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚に障害をお持ちの当事者による講義(日常生活の困り具合と生活の知恵) ・身体機能・障害の理解 ④「頸椎損傷」「上肢障害+弱視」 <p>6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「頸椎損傷」「上肢障害+弱視」の当事者による講義(日常生活の困り具合と生活の知恵) ・身体機能・障害の理解 ⑤「視覚障害」 <p>7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚に障害をお持ちの当事者による講義(日常生活の困り具合と生活の知恵) ・福祉機器 「ベッド・車いす他」 ・「水まわり機器他」 ・介護保険による福祉用具 (購入とレンタル) ・水まわりの福祉用具(動画) <p>8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の福祉機器を見る 福祉用具プラザ「アシスト21」訪問(小倉キャンパス出入口に集合し、全員徒歩で訪問) ・最新の福祉機器の中から興味を持った商品3点選定 ・興味を持った理由、自分だったらどう改良するか?をレポート提出 <p>9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境を考える「パブリック」 ・車いすに対する配慮 ・高齢者配慮の5つのポイント ・現場事例 (手すりの当り前化) <p>10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー探検隊① 「小倉駅のバリアを考える」 ※現地調査実施 小倉駅訪問(小倉キャンパス出入口に集合し、全員徒歩で訪問) ・何処にバリアがあるか? ・それは誰に対するバリアか? ・どうすればバリアフリーになるか? <p>11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー探検隊② 「小倉駅のバリアを考える」 小倉駅バリアフリー調査結果発表①(グループ単位で発表) <p>12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー探検隊③ 「小倉駅のバリアを考える」 ※調査結果報告会 小倉駅バリアフリー調査結果発表②(グループ単位で発表) <p>13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用企業の見学 サンアクアTOTO工場見学 ・障害者雇用企業のアイデアを習得 ・建築学科の学生対象(2コマ授業となるため情報デザイン学科は休講) <p>14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用企業の見学 サンアクアTOTO工場見学 ・障害者雇用企業のアイデアを習得 ・情報デザイン学科の学生対象(2コマ授業となるため建築学科は休講) <p>15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活学のまとめ バリアフリーについて ・「モノ」「住宅」「まち」についてのポイント再確認 ・「ひとにやさしいこころを持つ」という意識改革の確認 		
教育目標との対応	<p>「主に次の能力を修得する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会とデザインとの関わりを幅広く理解することができる ・地域活性化に対する情報デザインの役割を理解することができる ・自主的かつ継続的にキャリアを形成する取り組みができる ・問題を構造的かつ客観的(科学的)にとらえ、創意工夫して問題解決に取り組むことができる ・人間社会にある様々な問題をデザインという側面から解決する技術力を有することができる ・構想・企画・立案・実践を通して、より高い付加価値を創造しマネージメントすることができる 		
授業の到達目標	障害当事者の困り具合を把握し、バリアのないモノづくり・家づくり・まちづくりが考えられる学生を育てること。		
指導方法	「ひとにやさしいこころ」「ひとを思いやる気持ち」を持った学生を育てること 主に講義・演習形式で授業を進め、授業の理解度を深めるために学外授業(福祉用具プラザ見学等)を実施し、レポート提出を課す。		
教科書・参考書	教科書:なし、参考書:なし(毎回講義内容のレジメは準備します)		
評価方法	授業参加・態度とレポート提出で評価(グループ現場調査のプレゼンテーションを含む)		
受講上の注意	講義中の私語を慎むこと		
授業外における学習方法	障害当事者と触れ合うボランティア活動への参加、及びまちなか活性化活動へのボランティア参加		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	DX306A
講義科目名称	TOEIC I		
英文科目名称	TOEIC1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	張 栄		

開講意義目的
 TOEIC(トイーック)とはTest of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界約120ヶ国で実施され、グローバルスタンダードとして活用することができます。2010年度、日本では年間178万人が受験しており、最も人気のある資格として注目されている。本講座はTOEICに関する最新知識、学習法及びテスト対策などを説明し、日常やビジネスに関する英語圏文化を理解してもらうとともに、学生の英語運用能力の基礎となる土台を築き、得点数を伸ばしてあげることが目的とする。

授業計画

Orientation

- What is TOEIC?
- How is TOEIC organized?
- How to learn TOEIC?

Unit 1

- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)

Unit 2

- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)

Unit 3

- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)

Unit 4

- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)

Unit 5

- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)

Model Test (1) – Listening

Model Test (2) – Reading

Unit 6

- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)

- Unit 7
- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
- Unit 8
- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
- Unit 9
- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
- Unit 10
- Key Vocabulary
- Vocabulary Quiz
- Part 1 (Points; Warm up; Practice)
- Part 2 (Points; Warm up; Practice)
- Part 3 (Points; Warm up; Practice)
- Part 4 (Points; Warm up; Practice)
- Part 5 (Points; Practice)
- Part 6 (Points; Practice)
- Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
- Model Test (2) – Listening
- Model Test (2) – Reading

教育目標との対応	自分のアイデア・考えを的確に伝えるコミュニケーション力と基礎的な語学能力を身につけることができる。
授業の到達目標	TOEICを視野に入れつつも、さまざまな生活の場面とビジネスシチュエーションで使われる表現を理解し、パターンを覚えていき、TOEICの高得点を狙う。
指導方法	•原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。
教科書・参考書	教科書： Gear Up for The TOEIC TEST 著者： Mark D. Stafford / Chizuko Tsumatori 出版社： 金星堂 参考書： 市販の関連書
評価方法	•授業参加・態度 (70%) •定期試験 (30%)
受講上の注意	•授業以外の学習時間を確保できる。 •20分以上遅れる場合は欠席とする。 •辞書と教科書を必ず持参する。
授業外における学習方法	•英語力を身に付けるために、学外学習の時間を確保してもらおう。 •知らない単語、慣用表現は覚えまくること。
能動的授業又は地域課題	•英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、主体的な学習を実現する；

授業年度	2015	シラバスNo	85130A
講義科目名称	インテリアデザイン		
英文科目名称	Interior Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	石垣 充		
開講意義目的	人間の生活の場である室内、インテリア空間における尺度寸法、家具、材料、構法などの基礎知識を学ぶ。最初に家具や住居を中心としたインテリアデザインや人々の暮らしのカタの歴史を学び、インテリアデザインと生活様式の変遷を理解する。次に空間の仕上げについて、木質系素材、左官、タイル、ガラス等の具体的な材料の性質と特徴について学ぶ。更に人体寸法、姿勢、作業域、動作空間といった空間と人間の関係や大きさに関する講義を展開する。終結部としてインテリアデザインの資格試験としてのインテリアコーディネーターについて紹介する。		
授業計画	1回 導入部 インテリアデザインとは／インテリアデザインの発生／インテリアデザインに関する職業(映像資料) 2回 インテリアデザインの変遷-1 日本の住環境について 原始住居／寝殿造りと調度／書院造りと装置／数寄屋造り／庶民の生活と収納具／西洋館とその影響／第二次世界大戦後の住宅 3回 インテリアデザインの変遷-2 現代社会と住空間 日本の住宅と暮らしのカタについて 4回 インテリアデザインの変遷-3 インテリア史概説 西洋建築の歴史／インテリアデザイン、古代／中世／近世 5回 インテリアデザインの変遷-4 近代1 産業革命／19世紀 6回 インテリアデザインの変遷-5 近代2 近代 7回 空間としてのインテリア-1 インテリアと構法 建築の構造とインテリア／インテリアの構法 8回 空間としてのインテリア-2 材料と仕上げ1 木質系素材 9回 空間としてのインテリア-3 材料と仕上げ2 左官／タイル／ガラス 10回 空間としてのインテリア-4 開口部1 開口部の種類 11回 空間としてのインテリア-5 開口部2 開口と造作／ウインドウトリートメント／繊維製品 12回 大きさのデザイン-1 寸法とモジュール 人体寸法／人体寸法と設計 13回 大きさのデザイン-2 人間工学と行動心理 姿勢／作業域／動作空間 14回 エレメントとしてのインテリア 椅子のデザインについて 脚物家具と箱物家具／20世紀の椅子デザイン 15回 終結部 インテリアデザイン資格試験について／インテリアの仕事紹介		
教育目標との対応	導入部においてインテリアデザインの意味や意義を説明し、その後の講義内容の理解度を高めるようにする。また終結部においては職業としてのインテリアコーディネーターの役割を紹介することで具体的な知識となるように対応させる。		
授業の到達目標	生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけることができる。		
指導方法	特に教科書を用いないが下記参考書に基づき授業を進める(購入の義務無)。必要に応じて適宜資料を配布し、スライドや映像資料等を用い理解度を深める。		
教科書・参考書	参考書:「世界で一番くわしいインテリア」和田浩一他著 株式会社エクスナレッジ		
評価方法	成績評価の比率は、小テスト(スケッチ等提出物を含む)30%、授業参加・態度20%、定期試験50%とする。		
受講上の注意	小テストとしてスケッチを行う場合がある。三角スケール等の製図道具を各自持参すること。 小テスト用紙配布時に不在の学生に対して再配布を行わない。(欠席扱い) 私語等が多い学生に対して退室を求める場合がある。(欠席扱い) 5回以上の欠席した場合は「不可」扱いとする。 授業の進行状況により授業内容を変更することがある。		
授業外における学習方法	授業計画に記載している内容に沿い、参考書などにより事前に予習しておくこと。 小テストとしてスケッチパースを描く場合がある。理解度を深めるため各自復習すること。		
能動的授業又は地域課題	無		

授業年度	2015	シラバスNo	85140A
講義科目名称	景観デザイン		
英文科目名称	Landscape Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	八木 健太郎		
開講意義目的	個々の建築をデザインすることにとどまらず、その集合体として景観を評価しデザインすることが重要になっている。本講では、景観の基本的な考え方や、景観を評価し、良い景観を維持し創造するためのデザイン手法を学ぶことを目的とする。		
授業計画	1回 イントロダクション 景観とはなにか？景観の概念について講述する 2回 集落の景観 人が生活する場所、集落景観の特性について講述する 3回 都市の景観1 まちの成り立ちと都市景観の特性について講述する 4回 都市の景観2 都市景観の特性について講述する 5回 景観のデザインとは 景観をデザインするためのアプローチについて講述する 6回 景観の分析手法 景観を調査・分析することの意味と役割について講述する 7回 景観の構成要素 景観を構成する要素について講述する 8回 景観イメージ 人の空間認知と景観のかかわりについて講述する 9回 景観イメージ 景観イメージの分析と計画への応用について講述する 10回 シークエンスとノーテーション 動きに伴う景観の変化を分析・計画する方法について講述する 11回 イベントとプログラム 時間の変化にともなう景観の変化を分析・計画する方法について講述する 12回 景観に関わる法制度1 景観を維持、形成するための法制度について講述する 景観法に至るさまざまな取り組み 13回 景観に関わる法制度2 景観を維持、形成するための法制度について講述する 景観法 14回 景観デザインの実例 実際の計画事例をもとに、景観のデザイン手法について講述する 15回 北九州の景観 普段学び生活している北九州市の景観について、諸問題や課題について講述する		
教育目標との対応	デザインを学ぶ学生の幅広い教養の一部をなす知識を身につける科目である。 生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけることができる。 と同時に、特に建築を専門とする学生に対しては、建築のデザイナー・技術者として求められる、都市や景観をデザインする上での専門的かつ現代的な知見を身につけるための科目でもある。 景観行政に関する法制度など、建築士の資格取得に必要な基本的知識を修得する。		
授業の到達目標	景観とは何か？という問いに対して、多くの事例を通して自らの理解を構築すること。 景観を評価しデザインする手法を身につけること。		
指導方法	スライドを用いた講義形式で行う。必要に応じて学外・近隣でのフィールド講義やゲストスピーカーによる特別講義を行う。 また、講義内容が前後する場合がある。		
教科書・参考書	教科書は特に指定しない。 重要な参考文献については講義中に適宜紹介する。		
評価方法	レポートまたは期末試験等による評価(80%)と、受講態度(20%程度)を合わせて評価する。		
受講上の注意	積極的に授業に参加すること。 学部共通科目であることを考慮し、必ずしも建築の分野の知識があるとは限らない前提で講義を行うが、都市計画に関する基礎的な知識があることが望ましい。 建築学科の学生諸君は都市地域計画を受講していることが望ましい。情報デザイン学科の諸君についてはその限りではない。 日常から身の周りの風景を良く観察する習慣をつけること。		
授業外における学習方法	講義と並行して、日常生活で接している景観のスケッチを行うことが求められる。 スケッチを通して身の回りの景観をよく観察すること。		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	85150A
講義科目名称	空間デザイン		
英文科目名称	Space Design		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位	選択
担当教員	岡田 知子		
開講意義目的	人間と空間のかかわりあいについて知覚特性、行動特性、集合特性、文化特性の視点から解説する。		
授業計画	<p>1回 インTRODクシヨソ 講義の内容とすめ方について説明する。</p> <p>2回 人間の知覚特性(1) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・錯覚、錯視 ・奥行きと立体感、パースペクティヴ</p> <p>3回 人間の知覚特性(2) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・視線、視野、視覚 ・障りとヴィスタ</p> <p>4回 人間の知覚特性(3) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・黄金分割とルート矩形 ・プロポーション</p> <p>5回 人間の知覚特性(4) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・視覚の相対性と恒常性 ・知覚像のゆがみ</p> <p>6回 人間の知覚特性(5) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・色の心理的効果</p> <p>7回 人間の知覚特性(6) 人間の知覚特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・色の心理的効果</p> <p>8回 人間の行動特性(1) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・パーソナルスペース ・集合特性</p> <p>9回 人間の行動特性(2) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・なわばり行動とテリトリー ・まもりやすい空間</p> <p>10回 人間の行動特性(3) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・プライバシーとコミュニケーション ・プライバシーと空間</p> <p>11回 人間の行動特性(4) 人間の行動特性と空間のかかわりあいについて下記の視点から解説する。 ・文化と行動特性</p> <p>12回 文化と空間概念(1) 文化と空間のかかわりあいについて下記のテーマで解説する。 ・砂漠と密林 ・「奥」の思想</p> <p>13回 文化と空間概念(2) 文化と空間のかかわりあいについて下記のテーマで解説する。 ・照葉樹林文化論 ・イネと麦</p> <p>14回 文化と空間概念(3) 文化と空間のかかわりあいについて下記のテーマで解説する。 ・方位観 ・聖なる方向</p> <p>15回 まとめ 講義のまとめ</p>		
教育目標との対応	生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につける。 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能を習得する。		
授業の到達目標	生活空間や建築、都市、環境に関する幅広い知識を身につけることができる。 建築士(1級建築士、2級建築士)の資格取得に必要な基本的知識・技能が習得できる。		
指導方法	ビジュアルに講義を行う。		
教科書・参考書	各回の講義で適宜資料を配布する。参考書は「集住の知恵ー美しく住むかたち」日本建築学会編、技報堂出版。		
評価方法	受講態度10%、試90%		
受講上の注意	なし		
授業外における学習方法	公開している講義内容を事前に見ておくこと。 参考書を事前に読んでおくこと。		
能動的授業又は地域課題			

授業年度	2015	シラバスNo	85240A
講義科目名称	TOEIC II		
英文科目名称	TOEIC II		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	張 栄		

開講意義目的	TOEIC(トイーック)とはTest of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界約120ヶ国で実施され、グローバルスタンダードとして活用することができます。2010年度、日本では年間178万人が受験しており、最も人気のある資格として注目されている。本講座はTOEICに関する最新知識、学習法及びテスト対策などを説明し、日常やビジネスに関する英語圏文化を理解してもらうとともに、得点数を伸ばしてあげることが目的とする。
--------	---

授業計画	1回	Unit 11 Documents <ul style="list-style-type: none"> •Key Vocabulary •Vocabulary Quiz •Part 1 (Points; Warm up; Practice) •Part 2 (Points; Warm up; Practice) •Part 3 (Points; Warm up; Practice) •Part 4 (Points; Warm up; Practice) •Part 5 (Points; Practice) •Part 6 (Points; Practice) •Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
	2回	Unit 12 Public Announcements <ul style="list-style-type: none"> •Key Vocabulary •Vocabulary Quiz •Part 1 (Points; Warm up; Practice) •Part 2 (Points; Warm up; Practice) •Part 3 (Points; Warm up; Practice) •Part 4 (Points; Warm up; Practice) •Part 5 (Points; Practice) •Part 6 (Points; Practice) •Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
	3回	Unit 13 Commuting <ul style="list-style-type: none"> •Key Vocabulary •Vocabulary Quiz •Part 1 (Points; Warm up; Practice) •Part 2 (Points; Warm up; Practice) •Part 3 (Points; Warm up; Practice) •Part 4 (Points; Warm up; Practice) •Part 5 (Points; Practice) •Part 6 (Points; Practice) •Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
	4回	Unit 14 Travel <ul style="list-style-type: none"> •Key Vocabulary •Vocabulary Quiz •Part 1 (Points; Warm up; Practice) •Part 2 (Points; Warm up; Practice) •Part 3 (Points; Warm up; Practice) •Part 4 (Points; Warm up; Practice) •Part 5 (Points; Practice) •Part 6 (Points; Practice) •Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
	5回	Unit 15 News <ul style="list-style-type: none"> •Key Vocabulary •Vocabulary Quiz •Part 1 (Points; Warm up; Practice) •Part 2 (Points; Warm up; Practice) •Part 3 (Points; Warm up; Practice) •Part 4 (Points; Warm up; Practice) •Part 5 (Points; Practice) •Part 6 (Points; Practice) •Part 7 (Points; Practice 1; Practice 2)
	6回	Test (1) *Reading Section
	7回	Test (1) *Listening Section *Comments
	8回	Test (2) *Reading Section
	9回	Test (2) *Listening Section *Comments
	10回	Test (3) *Reading Section
	11回	Test (3) *Listening Section *Comments
	12回	Test (4) *Reading Section
	13回	Test (4)

	*Listening Section *Comments 14回 Test (5) *Reading Section 15回 Test (5) *Listening Section *Comments
教育目標との対応	自分のアイデア・考えを的確に伝えるコミュニケーション力と基礎的な語学能力を身につけることができる。
授業の到達目標	TOEICを視野に入れつつも、さまざまな生活の場面とビジネスシチュエーションで使われる表現を理解し、パターンを覚えていき、TOEICの高得点を狙う。
指導方法	・原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。
教科書・参考書	教科書: Gear Up for The TOEIC TEST 著者: Mark D. Stafford / Chizuko Tsumatori 出版社: 金星堂 参考書: なし
評価方法	評価方法 ・授業参加・態度 (70%) ・定期試験 (30%)
受講上の注意	・この授業はTOEIC Iを受けた学生に限定する ・授業以外の学習時間を確保できる。 ・20分以上遅れる場合は欠席とする。 ・辞書と教科書を必ず持参する。
授業外における学習方法	・英語力を身に付けるために、学外学習の時間を確保してもらう。 ・知らない単語、慣用表現は覚えまくること。
能動的授業又は地域課題	・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、主体的な学習を実現する。